

2. プロジェクト投入・活動進捗／プロジェクト達成状況

(1) 日本側投入

カテゴリ	情報源 -進捗報告書 -C/P及びJ/E -質問票	2009年1月時点における進捗状況のサマリー		参照
		日本側投入		
J1. 専門家 (1) 長期専門家 (2) 短期専門家	同上 同上		-2008年12月末までに、長期派遣専門家(57,73M/M。薬物対策、薬物分析、業務調整)3名、が派遣された。 -R/Dにおいては、薬物対策、業務調整の二人が長期派遣され、合計60MMを想定していた。 -薬物対策、薬物分析、業務調整の専門家が派遣された。(28,58MM。述べ8名 2009年3月まで予定を含む)。 -R/Dにおいては、薬物分析が短期派遣されることを想定していた。派遣期間は未定であった。	表 1
J2. 機材供与	同上		対タイ -ICE分析用ソフトウェア(2006年 188万円)。 -大型プリンター(2008年 現地調達THB118,030) -DB用PC3台及び付属品(2008年 現地調達THB131,610)	
J3. 日本でのカウン ターパート研修	同上		-2007年9月に実施。2名、3週間	表 2
J4. 終了時評価	同上		-2009年1月 実施(3人)	
J5. その他	同上		コンサルタント契約 -GCメンテナンクス研修(Tramat社) -薬物データベース開発(InfoMania社)	

(2) タイ側投入

カテゴリ	情報源 -進捗報告書 -C/P及びJ/E -質問票	2009年1月時点における進捗状況のサマリー		参照
		タイ側投入		
T1. C/Pの配置	同上		-11人のカウンターパートがONCBの3部局 (Administration, Law Enforcement, Laboratory) より、配置されてい る。 -JCCも機能している。 -ラボの人事異動が行われ、技術を身につけた分析官が異動した。	表 3
T2. 建物、施設	同上		-日本人専門家用執務室の供与 (ONCB本部2室、NATSI1室) 秘書1名	
T3. 運営資金	同上		-ONCBの一般予算から支出している。TIDA(Thailand International Development Cooperation Agency, タイ国際 開発協力機構)から、秘書及び日本人専門家のためのドライバーの給与を提供。プロジェクトのための特別枠はな い。 -CPの外国へへの出張旅費等は、JICA負担となっている。	
T4. 分析機器の維持 費	同上		-試薬、ガスなどを独自に調達することができる。	

(3) 活動実績

活動	情報源	2009年1月時点における進捗状況のサマリー	
I-1 NATSIラボの薬物等分析能力の評価をする	専門家報告書 ヒアリング	2006年12月から2007年3月にかけて、日本人専門家とカウンタートがNATSIの薬物分析能力の現状について、検討を行った。	表 4 表 5
I-2 薬物分析研修の訓練用教材を改善する	専門家報告書 JCC資料 ヒアリング	-日本人専門家がGC-MSを利用した薬物分析のデキストを作成した。 -日本人専門家がIce分析用「特定の11試料対多数試料の類似性の検索」のExcelテーブルを作成した。 -NATSIの分析官がYaba型錠剤の分類マニュアルを作成した。	表 6
I-3 上記に基づき、訓練を実施する	専門家報告書	-日本人専門家がタイでOJTベースによる研修を行った。 1:2006年10月～11月 IP 分析 2:2006年12月～2008年3月 大麻、アヘン、メタアンフェタミンなどの分析 合計27回 延べC/P人数42人 ICE分析のために、日本人専門家により、GC用ソフトをアップデートした。 3:2008年10月～09年3月 Iceの分析など、注意を要する場合の分析スキルの向上。 汚染の防止技術。	
2-1 薬物取締りに関する薬物分析結果の活用状況や能力を評価する	専門家報告書 ヒアリング	2006年12月から2007年1月にかけて、日本人専門家とカウンタートがONCBにおける薬物分析の薬物取締り能力の状況について、検討を行った。	
2-2 薬物取締りの訓練教材を改善する		ONCBが独自に訓練教材を作成した。	表 6
2-3 薬物取締りに関する訓練を行う	JCC2009年1月資料	薬物取締りに関する訓練は、ONCBの予算で以下のように、実施された。2008年分の概要は以下の通りである。 タイトル：Training of Utilization of Drug Impurity Profiling for Law Enforcement 時期：2008年7～8月 予算：601,785タイバーツ 場所：地方5カ所 (Suratthani, Pittsanulok, Ubon Ratchathani, Rayong and Petchuburi) 講師：Law Enforcement BureauおよびNATSI職員 対象：取締関係者98名 (ONCB, 県庁, 国軍, バンコク首都圏警察, 科学捜査警察, 国境警備警察, 32県の警察。)	
2-4 薬物捜査に薬物分析を活用するガイドラインを作成する		不明。	
2-5 CLMW諸国においても活用可能な方策として、薬物取締りに薬物分析結果を活用することを促すための薬物分析データの解析及び集約方法	専門家報告書 ヒアリング	-薬物分析を薬物取締りに活用するため、ONCBで使われている分類方法を元にした薬物データベースを作成、導入することが有効であると検討された。これにより、押収された薬物に係る分析情報（一般情報、外観検査結果、定量定性分析結果）と捜査情報（一般情報、事件情報、被疑者情報、関連情報）を連携させることができる。	

<p>3-1 CLMV諸国における「薬物取締り」・「薬物分析」分野の訓練ニーズを調べる</p>	<p>JCC(2007年6月), 専門家報告書(2008年4月)</p>	<p>2006年12月から07年1月までの間、日本人専門家とカウンタートパートがCLMVを巡回し、支援ニーズを調べた。その結果、CLMV各国の以下のような問題点が認識され、要望が表明された。 - 不十分な維持管理資金・分析技術のために、GCが十分に利用されていない国がある。 - CLMVは、外観分析を含むATS薬物分析の支援ニーズを表明した。 2007年3月にCLMVTとJICAの共同会議であるInitiation Seminarを開催し、以下のような目標を設定した。 1: GCによるIP分析を持続できるようにする。 2: 錠剤型薬物分析のデータベースをCLMV各国に普及させる。 3: 薬物分析能力の向上を図る。 4: GCによるアイス型錠剤のIP技術をT, Vに供与する。(後にこの項目のみ削除。理由は専用のGCをVが用意できないため。)</p>
<p>3-2 CLMV諸国における「薬物取締り」・「薬物分析」分野の訓練コースの計画を改善する</p>	<p>JCC(2007年6月), 専門家報告書</p>	<p>上記の支援ニーズ調査の結果、3月のセミナーをベースとして、2007年6月のJCCにおいて、以下のような訓練コースを計画した。 [薬物分析] 2007年7月, 9月にタイにおける地域ワークショップ (2回) 2007年8-9月に国内研修の準備 2007年9-2008年3月国内研修の実施 2008年6月, 7月にタイにおける地域ワークショップ (2回) 2008年8-9月に国内研修の準備 2008年9-2009年3月国内研修の実施 [薬物取締り] 2007年6月, 7月にタイにおける地域ワークショップ (2回) 2007年8-9月に国内研修の準備 2007年9-2009年3月国内研修の実施 2008年6月, 7月にタイにおける地域ワークショップ (2回) 2008年8-9月に国内研修の準備 2008年9-2009年3月国内研修の実施 [地域セミナー] 2008年5月 第2回地域セミナー ベトナム 2009年3月 最終地域セミナー バンコク</p>
<p>3-3 CLMV諸国における「薬物取締り」・「薬物分析」分野の訓練教材の改善を行う</p>		<p>全体の計画に基づき、日側、タイ側の講師がそれぞれの訓練教材を作成した。日本人専門家とカウンタートパートは教材開発とカリキュラムに付き助言を行った。</p>

3-4 訓練を実施する		<p>以下の研修・訓練を実施した。</p> <p>-Seminar Initiation Seminar 07/3/21 Bangkok 各国4名x4ヶ国 Leaders Workshop in Thailand 薬物対策 第1回ワークショップ 07/6/4-6/8 各国5名 x 4ヶ国 第2回ワークショップ 07/7/23-7/27 各国5名 x 4ヶ国 薬物分析 ワークショップ 07/7/16-7/20 各国2名 x 4ヶ国 -In-Country Training 薬物取締りセミナー (表8) 薬物分析セミナー (表8) -GC維持管理ワークショップ (2008年9月～11月) Tramat社によりCLMW1ヶ国あたり3日 (メンテナンソ作業1日, 研修2日。ただし、ベトナムは2箇所 (ハノイおよびホーチミン))。 -薬物分析データベース設置ワークショップ (2009年1月～2月) Infomania社により、CLMW1ヶ国あたり2～3日。</p>	表 7
3-5 訓練の成果について評価を行い、教訓を引き出す	専門家報告書 (08年6月)	<p>-評価は受講者に対するアンケートに基づいている。講師により、受講者のレベルに合わせて内容を調整している。</p>	
3-6 評価や反省に基づき訓練コースの見直しや改善を行う	運営指導調査 (08年5月)	<p>2008年5月にJICA本部より、運営指導調査団が行われ、特にCLMV向けの活動について、見直され、以下の6点を協力活動の柱として、プロジェクト側と協議し、およその合意を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 外観検査技術を含む薬物分析技術の向上 2: 薬物分析機器のメンテナンソ体制の構築 3: 薬物分析結果が活用されるための薬物データベースの構築 4: 薬物対策/取締り機関における簡易判定薬活用 5: 薬物取締り官のためのマニュアル、ハンドブック整備 6: 薬物取締り官の知識・技術の向上(取締り一般、分析結果の活用) 	

プロジェクトの要約	指標	データ入手手段	2009年1月時点における達成状況のサマリー	達成度の評価
<p>上位目標： 薬物対策協力の枠組み、特にカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイにおける薬物分析から得られる科学的な証拠に基づき薬物取締りが強化される。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の関連機関間で、薬物分析結果が交換される。 2. リンソースパーション (薬物管理・薬物分析の教官、維持管理教官、データベースコンサルタント) のリストが参加国間で共有される。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連参加機関のプロジェクト記録 2. リンソースパーション・リスト 	<p>上位目標の達成状況について、現時点では判断することはできないが、上位目標に向けた、以下のような進捗を見ることができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬物データベースが設置されつつあり、円滑な運用が期待されている。NATSIでは、IPの結果が蓄積されつつある。標準化された新規データベースによって、データ交換の手法がより改善されよう。データ交換が、より頻繁に行われることが期待される。 タイの専門家リストは作成されている。NATSIは、CLMW諸国がONCBにコンタクトする際の窓口をトピックごとに指定している。しかし、CLMW諸国ではリソースパーションのリストを作成しておらず、交換もされていない。 	---

<p>プロジェクト目標： 法執行、薬物分析/不純物分析の分野における域内カウンタースタッフに対する技術支援を提供するため、薬物分析と不純物分析の能力をより向上させる。</p>	<p>1. ONCBのNATSIが、地域における薬物分析と不純物分析の本格的な機関にアップグレードされる。 2. ONCBカウンタースタッフが薬物管理と薬物分析の訓練コースの教官/講師として、従事する。</p>	<p>1. ONCBの活動記録(予算、機材、人材) 2. CPが作成した訓練コースと教材の報告書</p>	<p>1. NATSIの能力向上が図られ、地域における本格的な薬物分析機関として認識されている。 2. ONCBカウンタースタッフが各国において、教官/講師としての能力を身につけた。</p>	<p>中程度</p>
<p>成果 1. NATSIラボの薬物と関連物質の分析能力が向上する。</p>	<p>1. NATSI, ONCBの薬物分析官が不純物分析、外観分析の技能を習得する。</p>	<p>1. ATS/ICE分析実績(表5) 2. NATSI分析官リスト(表4) 3. 研修教材(表6) 4. インタビュー</p>	<ul style="list-style-type: none"> 錠剤型覚せい剤 (アンフェタミン系錠剤覚せい剤、Amphetamine-type Stimulus, 以下ATS) の外観プロファイルリングおよびGCを利用した不純物分析を、指導できる能力がある。 3名の分析官のATSの不純物分析のスキルが向上し、結晶型覚せい剤 (Crystal-type Methamphetamine Stimulus, 以下ICE) の不純物分析について、技術を習得しつつある。 ICEの不純物分析のためには、分析の精度管理、そのためのデータ管理と蓄積がきわめて重要である。不純物分析ニーズや周辺国の支援ニーズの増大に対応するためには、NATSI分析官の分担体制や人事配置、分析官間の知識の移転を含めた人材育成が重要である。 	<p>中程度</p>
<p>2. 薬物分析と薬物法執行の連携が強化される</p>	<p>1. 捜査ガイドライン/マニュアル/ハンドブックが開発され、配布される。</p>	<p>1. 国内訓練の教材(表6) 2. JCCM資料 (09年1月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ONCBは、すでに薬物情報システムを確立しており、また、分析や外観検査の結果・証拠に基づき捜査、戦略的な取締り方策等にかかる国内研修を独自に行うなど、自立性は高い。 連携強化に関しては、次のような実績がある。①薬物捜査官は押収した薬物を、デジタルカメラで撮影し、それをNATSIに送付すると、警察署に分析結果が返送される。②すべての警察署に簡易判定試薬が設置されている。③ONCB分析官が、地方の分析官に対して、薬物分析の結果を捜査に反映させるための研修を実施している。 ONCBは薬物捜査官向けの教材を独自に作成している。 周辺国向けに開発した薬物データベースはタイと共通のデータベースを用いており、ONCBにも導入予定がある。 	<p>高い</p>
<p>3. ONCB教官の法執行と薬物分析/不純物分析の分野における訓練実施能力が強化される。</p>	<p>1. ONCBのCPが、取締りと薬物分析に関して、域内のCPから要求された場合、指導助言を提供することができると、薬物管理と薬物分析のONCB教官のリストが編成される。 3. 薬物管理と薬物分析の教材(教科書、プレゼンテーション)が、ONCBに蓄積される。</p>	<p>1. 訓練の報告書と評価 2. CLMW研修参加者からのヒアリング 3. 教官リスト</p>	<p>1. 外観検査についてはCLMV各国が、ONCBのデータベースを基にして、導入することが合意された。ONCB側から2国間のチャネルを通じて、指導権を提供している。 2. ONCB教官は、日本側と比べて技術的に発展段階にあるものの、総じてCLMVよりも高い経験や知識は、情報の少ないCLMVにとって非常に有益であった。一部の国では言語の面から親和性が高い点も有利に働いている。ONCBによる既存の日常的な情報交換の関係を相まって、研修や教材といった総合的なフォローアップが期待できる。 3. 教官のリストは作成されている</p>	<p>高い</p>

表2: カウンターパート研修員リスト

研修員	職位	分野	期間	日本における訪問先
ワンチャイ・ディサテス Mr. Wanchai Disates	Assistant Director, LED, ONCB	薬物対策	2007年9月24日 ～10月10日	警察庁、海上保安庁、科学捜査研究所、警察学校、京都府警など。
サラワット・パクデー Mr. Sarawut Pakdee	Senior Officer, LED, ONCB			

表3: ONCB カウンターパートリスト

2009年1月現在

名前	職位
1 総務	
Mr. Chartchai Suthiklom	薬物統制上級顧問
Ms. Rachanikorn Sarasiri	外事局局長
Mr. Kraivudh Maneeratana (Tok)	薬物取締局 チーフ
2 薬物取締局 (LEB)	
Mr. Sukhum Opasniputh	薬物取締局局長
Mr. Wanchai Disates	薬物取締局副局長
Mr. Chotipun Jullapech	薬物取締局 監督官
3 薬物分析技術サービス研究所 (NATSI)	
Mr. Vichet Puthaviriyakorn	NATSI 所長
Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj (Pom)	薬物監視・技術課 チーフ
Ms. Wiphada Panok (Weaw)	薬物状況監視データ処理課 チーフ
Mr. Amornchai Trikunakornwong (Sone)	薬物分析官
Ms. Supawadee Boonyapitaks (Koi)	薬物分析官
Ms. Juthamard Phorachata (Mard) (Up to Nov. 2008)	薬物分析官

出所: ONCB.

表4: NATSI 分析官とその習得技能

	名前	職位	C/P	習得した技能				注
				薬物分析	ATS不純物分析	ICE不純物分析	教官	
1	Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj	上級分析官	X	X	X	X	不純物分析の連絡担当	
2	Ms. Wiphada Panok	上級分析官	X			X	データベースの連絡担当	
3	Mr. Amornchai Trikunakonwong	分析官	X	X		X	新規に雇用	
4	Ms. Pornjit Sudjai	分析官		X		X	新規に雇用	
5	Mr. Weerayut Hongdanklang	分析官		X		X	新規に雇用	
6	Ms. Supawadee Boonyapitaks	分析官	X	X	X		新規に雇用	
7	Ms. Ratee Srimak	分析官		X	X		新規に雇用	
8	Ms. Jaidee Doungchan	分析官		X		X	新規に雇用	
9	Ms. Supaporn Khongram	分析官		X		X	新規に雇用	
10	Ms. Renu Khamhom	分析官		X			新規に雇用	
11	Ms. Janchira Chalee	分析官		X			新規に雇用	

出所: NATSI.

表5: NATSI における不純物分析の実施状況

不純物分析	TFY2005	TFY2006	TFY2007	TFY2008
ATS	695	862	1,007	1,015
Ice		合計 243		

出所: NATSI.

注: TFY(タイ財政年度)は10月から、翌年9月までである。

TFY 2008は2007年10月から、2008年9月まで。

表6：研修教材リスト

タイトル	著者	発行	部数/ 形態	配布先	関連する活動	注
Practical GC-MS Analysis of Controlled Drugs in Forensic Toxicology	高市 憲一	2007年11月	コピー	CLMVT各国ラボ	1-2	
Narcotics Drugs in the Region and Trend of New Drugs	Mr. Amomchai Trikunakornwong	2007年6月	PowerPoint	国内研修参加者	2-2, 3-2	
The Basic Principle of Drug Analysis	Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj	2007年6月	PowerPoint	国内研修参加者	1-2, 3-2	
Drug Impurity Profiling, Intelligence Analysis	Mr. Chotipun Jullapech	2008年8月	PowerPoint	国内研修参加者	1-2, 2-2, 3-2	
Illegal Narcotics Investigation	Mr. Chotipun Jullapech	2008年10月	PowerPoint	国内研修参加者	2-2, 3-2	
Gathering of Drug Information and Intelligence Analysis	Mr. Chotipun Jullapech	2008年10月	PowerPoint	国内研修参加者	2-2, 3-2	
Intelligence Analysis	Mr. Chotipun Jullapech	2008年10月	PowerPoint	国内研修参加者	2-2, 3-2	
Utilization of IP and Intelligence Analysis	Mr. Chotipun Jullapech	2008年10月	PowerPoint	国内研修参加者	1-2, 2-2, 3-2	
Introduction of Drug investigation in Japan	黒川天助	2008年10月	PowerPoint	国内研修参加者	3-2	
Impurity Drug Profiling and Signature Analysis	Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj	2008年10月	PowerPoint	国内研修参加者	1-2, 3-2	
Drug Testing and Drug Identification	Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj	2008年10月	PowerPoint	国内研修参加者	1-2, 3-2	
Basic Knowledge and Identification	Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj	2008年10月	PowerPoint	国内研修参加者	1-2, 3-2	
Physical Examination	Ms. Wiphada Panok	2008年10月	PowerPoint	国内研修参加者	1-2, 3-2	
Annual Situation Analysis	Mr. Vichet Puthaviriyakorn	2008年10月	PowerPoint	国内研修参加者	1-2, 3-2	
JICA Drug Profiling Database Installation Guide (For Police Version 0.2)	Praween Kuvanonda (Jelly Fish Co., Ltd.)	2008年12月		CLMVデータベース研修参加者	3-2	
JICA Drug Profiling Database Installation Guide (For Administrator Version 0.8)	Praween Kuvanonda (Jelly Fish Co., Ltd.)	2008年12月		CLMVデータベース研修参加者	3-2	
Yaba Classification Manual in Thailand	NATSI	2009年1月	Photocopy	タイ国内研修用	1-2	
Agilent 6890 Gas Chromatograph - Maintaining Your GC	Agilent Technology			GCメンテナンス研修受講者	3-2	
Instructions and Guidelines of Drug Abuses Control	CCDAC (ミヤンマー)		300	ミヤンマー国内薬物取締り関係者	3-2	ビルマ語 JICAによる印刷費用負担。
Training Textbook for Drug Law Enforcement Officers	CPND (ベトナム)			ベトナム国内薬物取締り関係者	3-2	ベトナム語 JICAによる印刷費用負担。
Conspiracy Case Proceeding Process and Social Order Management	ONCB (タイ)		5,000	タイ国内薬物取締り関係者	2-2	タイ語。内部用。
Supreme Court Sentences on Narcotics Cases	ONCB (タイ)		5,000	タイ国内薬物取締り関係者	2-2	タイ語。内部用。
Narcotics Laws, Regulations and Orders	ONCB (タイ)		3,000	タイ国内薬物取締り関係者	2-2	タイ語。内部用。
Narcotics Laws of Thailand (Book and CD)	ONCB (タイ)		2,000	タイ国内薬物取締り関係者	2-2	タイ語。内部用。
The Summary of Narcotics Laws of Thailand	ONCB (タイ)		5,000	タイ国内薬物取締り関係者	2-2	英語
			10,000	タイ国内薬物取締り関係者	2-2	英語

出所: ONCB, プロジェクトその他

表7:CLMV 諸国向け研修と担当講師リスト

Table 7 CLMV向け研修とその講師

月日	開催国	会議の種類	テーマ	ONCB講師					日本側講師					その他	注	
				AT	CJ	JP	KK	SB	WP	KD	KK	KM	OO			TK
07/6/4 -8	タイ	リーダーWS	薬物取締り	X	X	X	X						X			Kraivudh, Wanchai, Vichet, Raviwan,
07/7/16 -20	タイ	リーダーWS	薬物分析	X		X	X	X						X		Vichet, Sudjai
07/7/23 -27	タイ	リーダーWS	薬物取締り	X	X	X							X			Kraivudh, Norathap, Vichet, Raviwan,
08/3/11 -13	ラオス	国内研修	薬物分析							X				X		
08/3/17 -20	ベトナム	国内研修	薬物分析							X				X		ハノイ、ホーチミン
08/3/24 -26	カンボジア	国内研修	薬物分析				X							X		
08/4/24	カンボジア	国内研修	薬物取締り										X			(NACD)による開催)
08/5/29 -30	カンボジア	ガイダンス	薬物分析							X			X			
08/8/26 -28	ミャンマー	国内研修	薬物取締り		X		X									
08/10/7 -9	ミャンマー	国内研修	薬物取締り		X		X				X					
08/11/4 -7	ラオス	国内研修	薬物取締り				X				X					
08/11/24 -28	カンボジア	国内研修	薬物取締り				X				X					
08/12/15 -19	ラオス	国内研修	薬物分析				X	X				X				
08/12/23 -24	ミャンマー	国内研修	薬物分析	X			X				X					
09/1/13 -16	ラオス	国内研修	薬物取締り		X		X				X					
09/2/3 -5	ラオス	国内研修	薬物分析		X		X	X			X	X				予定
09/2/17 -19	ミャンマー	国内研修	薬物取締り		X		X				X					予定

出所: プロジェクト.

注: 講師のイニシヤル

タイ側

AT: Mr. Amornchai Trikunakornwong (Sone)

CJ: Mr. Chotipun Jullapech

JP: Ms. Juthamard Phorachata (Mard)

KK: Ms. Kanyanan Kongpatitiroj (Pom)

SB: Ms. Supawadee Boonyapitaks (Koi)

WP: Ms. Wiphada Panok (Weaw)

日本側

KD: 黒川大助

KK: 小坂孝一

KM: 木村昌彦

OO: 大津留修

TK: 高市憲一

表8：CLMV 諸国向け研修とセミナー実績(薬物取締り／薬物分析)
薬物取締国内研修実績

1. カンボジア

No1. (二国間プロジェクト主催セミナーに参加)	
実施日:	2008年4月24日(木)
場所:	シエムリアップ空港職員事務所内のトレーニングルーム1
講師:	Dr. Meas Vyrih, Director of NACD Lab.
	Ms. Chhim Suitibunrith, Deputy director of NACD Lab.
	木村昌彦専門家(薬物対策)オブザーバー
	竹内宏之専門家(二国間プロジェクト)
内容:	薬物の基礎的知識
	薬物簡易判定試薬キットの使用方法(木村専門家助言)
研修参加者:	シエムリアップ国際空港に勤務する法執行官等計28名
	内訳:税関8名、入国管理警察官5名、軍警察官2名、ピザ警察官2名、空港管理官6名、他機関5名
	No2.
実施日:	2008年11月24日(月)～28日(金):5日間
場所:	Hotel Cambodiana (プノンペン)
講師:	Dr. Meas Vyrih, Director of NACD Lab.
	黒川大助専門家(薬物対策)
	Ms. Kanyanan Kongpatmitroj(ONCB薬物分析技術研究所上席研究官)
	Mr. Chotipun Julapech(ONCB薬物取締局薬物捜査官監督官)
研修内容:	
11月24日(月)	カンボジアの薬物情勢 (Dr. Meas Vyrih)
	日本の薬物捜査(黒川専門家)
11月25日(火)	押収薬物管理 (Ms. Kanyanan)
	薬物成分分析要領 (Ms. Kanyanan)
11月26日(水)	不純物分析データと外観検査の原理 (Mr. Chotipun)
	薬物捜査手法 (Mr. Chotipun)
	不純物分析データと外観検査手法 (Mr. Chotipun)
11月27日(木)	薬物情報収集と情報分析要領 (Mr. Chotipun)
	捜査情報分析 (Mr. Chotipun)
11月28日(金)	質疑応答(Dr. Meas Vyrih・黒川専門家・Mr. Chotipun)
研修参加者:	全国24州薬物捜査担当官71名、警察学校1名、税関1名、麻薬対策局2名、CAM2名、NACD2名、計79名

2. ラオス

No.1.	
実施日:	2008年11月4日(火)-7日(金):4日間
場所:	Lane Xang Hotel(ヴァンチャン)
講師:	Mr Oungseng Vixay (LDC長官) 黒川大助専門家(薬物対策)
	Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj (ONCB薬物分析技術研究所 上席研究官) Mr. Chotipun Julapech (ONCB薬物取締局 薬物捜査官 監督官)
研修内容:	
11月4日(火)	ラオスの薬物情勢 (Mr Oungseng Vixay)
	日本の薬物捜査(黒川専門家)
11月5日(水)	押収薬物管理 (Ms. Kanyanan) 薬物成分分析要領 (Ms. Kanyanan)
11月6日(木)	薬物事犯情報収集要領と薬物プロファイリング (Mr. Chotipun)
11月7日(金)	大量薬物押収事件と薬物成分分析事例 (Mr. Chotipun) 薬物事犯情報収集と情報分析 (Mr. Chotipun) 質疑応答 (Ms. Kanyanan・黒川専門家・Mr. Chotipun)
研修参加者:	国内中部地域在勤の薬物捜査担当官30名
No.2	
実施日:	2009年1月13日(火)-15日(木):3日間
場所:	Champa Grand Hotel(バクセー)
講師:	Mr Oungseng Vixay (LDC長官) 黒川大助専門家(薬物対策)
	Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj (ONCB薬物分析技術研究所 上席研究官) Mr. Chotipun Julapech (ONCB薬物取締局 薬物捜査官 監督官)
研修内容:	
1月13日(火)	ラオスの薬物情勢 (Mr Oungseng Vixay)
	日本の薬物捜査(黒川専門家)
1月14日(水)	不純物分析と外観検査 (Ms. Kanyanan) 薬物事犯情報収集と情報分析 (Mr. Chotipun)
1月15日(木)	薬物事犯捜査情報分析 (Mr. Chotipun) テストキット活用・薬物成分分析要領 (Ms. Kanyanan) 質疑応答 (Ms. Kanyanan・黒川専門家・Mr. Chotipun)
研修参加者:	国内南部地域在勤の薬物捜査担当官31名

3. ミャンマー

No1.	
実施日:	2008年8月26日(火)-28日(木):3日間
場所:	CCDAC本庁(ネピドー)
講師:	Pol.Lt.Col. Kyi Soe (Deputy Director of Law Enforcement Department, CCDAC) Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj (ONCB薬物分析技術研究所上席研究官) Mr. Chotipun Julapech (ONCB薬物取締局薬物捜査官監督官)
研修内容:	
8月26日(火)	Drug Situation in Myanmar and this Region (Pol.Lt.Col.Kyi Soe) Impurity Drug Profiling and Signature Analysis (Ms. Kanyanan)
8月27日(水)	Gathering of Drug Information and Intelligence Analysis (Mr. Chotipun) The Strategic Intelligence Analysis (Mr. Chotipun)
8月28日(木)	Operational Intelligence Analysis (Mr. Chotipun) Discussion (Ms. Kanyanan ・Mr.Chotipun)
研修参加者:	全国24箇所の薬物対策タスクフォース/関係機関、CCDAC所属の捜査官計30名 (Pol.Lt.2 nd Ltクラス)
No2.	
実施日:	2008年10月7日(火)-9日(木):3日間
場所:	CCDAC本庁(ネピドー)
講師:	Pol.Lt.Col. Kyi Soe (Deputy Director of Law Enforcement Department, CCDAC) 黒川大助 専門家(薬物対策) Ms. Kanyanan Kongpatnitiroj (ONCB薬物分析技術研究所上席研究官) Mr. Chotipun Julapech (ONCB薬物取締局薬物捜査官監督官)
研修内容:	
10月7日(火)	Drug Situation in Myanmar and this Region (Pol.Lt.Col.Kyi Soe) Impurity Drug Profiling and Signature Analysis (Instances of a drug profiling) (Ms. Kanyanan) Using Precursor Testkits (Ms. Kanyanan)
10月8日(水)	Gathering of Drug Information and Intelligence Analysis (Mr. Chotipun) Introduction of Drug Investigation in Japan (黒川 専門家)
10月9日(木)	The Strategic Intelligence Analysis (Mr. Chotipun) Operational Intelligence Analysis (Mr. Chotipun) Using Simple Drug Testkits (Ms. Kanyanan)
研修参加者:	全国24箇所の薬物対策タスクフォース/関係機関、CCDAC所属の捜査官計30名 (Pol.Lt.2 nd Ltクラス)

4. ベトナム

* 実績なし
* ベトナムでは自国研修を実施しており、対策分野への当プロジェクトの支援は教材作成支援以外に実施していない

薬物分析国内研修実績

1. カンボジア

	No1.
実施日:	2008年3月24日(月)~26日(水):3日間
場所:	NACD Forensic Laboratory
講師:	高市憲一 専門家(薬物分析) Ms. Kanyanan Kongpatnitroj (ONCB薬物分析技術研究所上席研究官)
研修内容:	
	1. GC-MS maintenance
	2. Tuning of the GC-MS
	3. Application for the analysis of the drug (Opium/Stimulants/Cannabinoids)
	4. Application for the analysis of the drug (Cocaine/Miscellaneous)
	5. Meeting for "Next OJT"
	1) Impurity profiling analysis of methamphetamine.
	2) Analysis of tablet drug.
	3) Improvement of capability for analysis of controlled drug.
研修参加者:	Dr. Meas Vyrieth, Director of NACD Lab.
	Ms. Chhim Suitibunrith, Deputy director of NACD Lab.
	他、NACD Lab スタッフ6名 (計8名)
	No2.
実施日:	2008年5月29日(木)~30日(金):2日間
場所:	NACD Forensic Laboratory
講師:	木村昌彦 専門家(薬物対策) Ms. Wiphada PANOK (ONCB薬物分析技術研究所薬物調査主任研究官)
研修内容:	
	1. 薬物データベース機器類設置
	2. 薬物外観検査研修1
	3. 薬物外観検査研修2
	4. 薬物外観検査データベース入力研修
研修参加者:	Dr. Meas Vyrieth, Director of NACD Lab.
	Ms. Chhim Suitibunrith, Deputy director of NACD Lab.
	他、NACD Lab スタッフ4名 (計6名)

2. ラオス

No.1.	
実施日:	2008年3月11日(火)–13日(木):3日間
場所:	FDQCC Forensic Laboratory
講師:	高市憲一 専門家(薬物分析) Ms. Wiphada PANOK(ONCB薬物分析技術研究所薬物調査主任研究官)
研修内容:	
3月11日(火)	1. Installation of equipments and its related items for tablet drug analysis (PC, photocopy stand, software, etc.)
3月12日(水)	2. Practice of tablet drug analysis.
3月13日(木)	3. Meeting for “Drug analysis of Phase II”
	1) Impurity profiling analysis of methamphetamine.
	2) Analysis of tablet drug.
	3) Improvement of capability for analysis of controlled drug.
研修参加者:	Dr.Latsamy VONGSACK, Director of FDQCC Lab. 他 FDQCCスタッフ3名、警察薬物担当2名(計6名)
No.2	
実施日:	2008年12月15日(月)–19日(金):5日間
場所:	FDQCC Forensic Laboratory
講師:	Ms. Kanyanan Kongpatitiroj(ONCB薬物分析技術研究所 上席研究官) Ms. Supawadee Boonyapitaks(ONCB薬物分析技術研究所研究官) 小坂孝一 専門家(薬物分析)
研修内容:	1. Tuning of the GC 2. Application for the analysis of the drug by GC 3. Impurity profiling analysis of methamphetamine.
研修参加者:	Dr.Latsamy VONGSACK, Director of FDQCC Lab. 他 FDQCCスタッフ3名、警察薬物担当2名(計6名)

3. ミャンマー

No.1.	
実施日:	2008年12月23日(火)–24日(水):2日間
場所:	CEO Forensic Laboratory (Yangon)
講師:	Ms. Kanyanan Kongpatitiroj(ONCB薬物分析技術研究所 上席研究官) Mr. Amornchai Triunakornwong (ONCB薬物分析技術研究所研究官) 小坂孝一 専門家(薬物分析)
研修内容:	1. Basic Knowledge of Precursor Chemicals 2. Identification and Analysis of Precursor Chemicals 3. Identification and Analysis of Unknown and Frequently used in Clandestine Laboratory
研修参加者:	CEO Yangon 6名、CEO Mandalay 2名、CID Yangon 2名(計10名)

4. ベトナム

	No1.
実施日:	2008年3月17日(月)-20日(木):4日間
場所:	(1) IFS Hanoi (3/17-18) (2) SIFS Ho Chi Minh City (3/19-20)
講師:	高市憲一 専門家(薬物分析) Ms. Wiphada PANOK (ONCB薬物分析技術研究所薬物調査主任研究官)
研修内容:	(1) IFS Hanoi 1. Installation of software. 2. Practice of tablet drug analysis 3. Meeting for "Drug analysis of Phase II" 1) Impurity profiling analysis of methamphetamine. 2) Analysis of tablet drug 3) Enhancement of capability for analysis of drug. 4) Impurity profiling analysis of "Ice type" methamphetamine.→その後キャンセル
研修内容:	(2) SIFS HCMC 1. Installation of software. 2. Practice of tablet drug analysis 3. Presentation of tablet drug analysis. 4. Meeting for "Drug analysis of Phase II" 1) Impurity profiling analysis of methamphetamine. 2) Analysis of tablet drug 3) Enhancement of capability for analysis of drug. 4) Impurity profiling analysis of "Ice type" methamphetamine.→その後キャンセル
研修参加者:	(1) IFS Hanoi : Dr. Hung Hoang Manh, Dep.Director, IFS、他 IFSスタッフ3名 (2) SIFS HCMC : Mr. Tien Nguyen Dang, Dep.Director, SIFS、他 SIFSスタッフ7名、他州支部スタッフ2名

3. CLMV 諸国の活動進捗と今後の計画

CLMV諸国向け成果	達成状況 (2009年1月現在)	プロジェクト終了までの計画
<p>< 1 > 外観検査技術を含む薬物分析技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> - ATSの不純物分析を各国2名以上のC/Pが確実に身につける／教えられるようになる - 外観検査データが各国でデータベースに入力される 	<p>[All CLMV]</p> <ul style="list-style-type: none"> - フェーズ 1 において各国2名以上の薬物鑑定官がATSの不純物分析技術を身につけた。 - タイにおける第三国研修で、各国2名ずつの薬物鑑定官が研修を受講した (ATSの不純物分析、他) (2007年7月)。 - 三カ国とも外観検査の薬物分類については、ONCB方式を採用することで同意している。 <p>[カンボジア]</p> <ul style="list-style-type: none"> - 不純物分析を含む薬物分析研修を2008年3月24-26日および5月29-30日に実施。 - NACDの分析官1名がATSの不純物分析を日常業務でも実施している。 - データベースについて、ラボ内で1名の管理者、2名のオペレーターを任命。 <p>[ラオス]</p> <ul style="list-style-type: none"> - 不純物分析を含む薬物分析研修を2008年3月11-13日および12月15-19日に実施。 - FDQCCの分析官1名が通常カラーテスト、TLC、GCを使った定性分析を実施。 - 不純物分析については、19サンプルを実施中であるが未完了。 - FDQCCには薬物分析に係る参照基準がほとんどない。 - タイのコンサルタントおよびJICA専門家によるデータベースのインストールおよび操作研修を1月21-22日に実施。 - ラボ内で1名の管理者兼オペレーターを任命。 <p>*取締官向け研修も同様</p> <p>[ミャンマー]</p> <ul style="list-style-type: none"> - 前駆物質分析の研修を2008年12月23-24日に実施。 - CEO では通常1名の分析官がカラーテストおよびTLCを実施。マンダレーの分析官1名はGC-MSを使った定性分析を実施。 - CEO には薬物分析に係る参照基準がほとんどない。 - データベースについては、ヤンゴンでは1名の管理者と6名のオペレーター (管理者含む)、マンダレーでは1名の管理者と3名のオペレーター (管理者含む) を操作研修要員として任命。 <p>[ベトナム]</p> <ul style="list-style-type: none"> - 不純物分析を含む薬物分析研修を2008年3月17-20日に実施。 - IFSではATSの不純物分析ができる分析官が6名いる。(4人ハノイ、2人ホーチミン) 	<ul style="list-style-type: none"> - CLMにおけるできる限りの薬物分析技術の改善が望ましい。 - データベースのインストールおよび操作研修を1月29-30日に実施予定。 *取締官向け研修も同様 - 薬物分析研修を2月3-4日に実施予定。 - 2月か3月にデータベースの運用の進捗に合わせた技術的なフォローアップを検討。 - 3月に薬物分析研修を実施予定。 - データベースのインストールおよび操作研修を2月13-14日に実施予定。 *取締官向け研修も同様

	<ul style="list-style-type: none"> - タイのコンサルタントおよびJICA専門家によるデータベースのインストールおよび操作研修を1月6-7日に実施。 *取締官向け研修も同様 - ハノイおよびホーチミンでそれぞれ1名の管理者兼オペレーターを任命。 	
<p>＜2＞薬物分析機器のメンテナンスを行う体制が構築される</p> <p>-GCがフェーズ2実施中の稼動+フェーズ2終了後も一定期間は稼動していること</p> <p>-GCメンテナンス研修を実施する</p> <p>-CLMV各国でGC消耗品・スペアパーツ等の購入ルート、費用、調達に必要な時間等の情報を整備し、この情報をC/Pが持っている（知っている）</p>	<p>[All CLMV]</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2008年8月にJICAベトナム事務所でTramat社とGC維持管理および維持管理研修に係る契約を締結。 <p>[カンボジア]</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2008年10月13-15日にTramat社によるGC維持管理研修を実施。 - NACDはカンボジア国内にあるMedicom社を通じてTramat社にスペアパーツおよび消耗品調達に係るコンタクトをとっている。 - ガス発生装置の代わりにガスボンベを調達。 - NACDラボは、財務局に\$30,000のCD維持管理経費を申請中。 <p>[ラオス]</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2008年10月1-3日にTramat社によるGC維持管理研修を実施。 - 2008年11月にFDQCCがGC修理のためにTramat社に連絡。 - FDQCCはスペアパーツや試薬、消耗品調達ののために、自身でTramat社もしくは地元エージェントに連絡している。 - FDQCCにおけるGC維持管理のための予算は十分確保されていない。 <p>[ミャンマー]</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2008年11月13-15日にTramat社によるGC維持管理研修を実施。 - タイのBang Trading社がガス発生装置を修理。 - CEOはTramat社にスペアパーツおよび消耗品調達に係るコンタクトをとっている。 - CEOは警察当局に対して年間\$1,000のGC維持管理経費を申請中。 - ミャンマーではガスや試薬等に対する輸入制限がある。 <p>[ベトナム]</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2008年9月16-18日にTramat社によるGC維持管理研修をハノイおよびホーチミンで実施。 - IFSの独自予算により、Tramat社の同様の研修を3、4人の分析官向けに実施。 - IFSでは、独自予算で必要なスペアパーツや試薬、消耗品を調達している。 	<ul style="list-style-type: none"> - GC持続的な維持管理に係る予算獲得の努力を支援 - GC持続的な維持管理に係る予算獲得の努力を支援 - GC持続的な維持管理に係る予算獲得の努力を支援

<p>< 3 > 薬物分析結果が活用されるための薬物データベース構築</p> <p>－薬物分析機関並びに薬物対策／取締機関においてデータベース構築の準備体制が整う</p> <p>－薬物対策・取締機関において、薬物データベースにデータが継続的に入力されるようになる</p>	<p>[All CLMV]</p> <p>－ 2008年1-5月に暫定版によりCLV諸国に対してデータベースの基本コンセプトを説明。</p> <p>[カンボジア]</p> <p>－ DICで1名の管理者、1名のオペレーターを任命。</p> <p>[ラオス]</p> <p>－ タイのコンサルタントおよびJICA専門家によるデータベースのインストールおよび操作研修を1月21-22日に実施。</p> <p>－ DCDで3名の管理者、1名のオペレーターを任命。</p> <p>[ミャンマー]</p> <p>－ CCDACのDrug Control Centerにおける2名の管理者兼オペレーターを任命。</p> <p>[ベトナム]</p> <p>－ 1月6-7日にCNPDおよびSODCにデータベースがインストール済み。</p> <p>－ CNPDで1名の管理者兼オペレーターを2名。</p> <p>－ 各サーバーとクライアントPCがまだつながっていない。</p>	<p>－ データベースのインストールおよび操作研修を1月29-30日に実施予定。</p> <p>*JICA専門家およびコンサルタントがデータベース運用状況をモニターする。</p> <p>－ 2月か3月にデータベースの運用の進捗に合わせた技術的なフォローアップを検討。</p> <p>－ データベースのインストールおよび操作研修を2月13-14日に実施予定。</p> <p>*JICA専門家およびコンサルタントがデータベース運用状況をモニターする。</p> <p>-早期にベトナム政府が各サーバーとクライアントPCを接続することを検討が期待される。</p>
<p>< 4 > 薬物対策／取締機関における簡易判定試薬活用</p> <p>－簡易判定試薬の使用方法について、各国講師（C/P）により、自国の薬物取締官への研修が実施される</p> <p>－簡易判定試薬が調達され、各国内で薬物取締機関へ配布される</p>	<p>[All CLMV]</p> <p>－ <6>の薬物取締りセミナーにおいて、薬物取締活動への簡易判定試薬の活用の有用性について各国の理解を共有。</p> <p>[カンボジア]</p> <p>－ 2008年11月28日に簡易判定試薬を供与。（Marquis Test: 3000, Simon Test: 2000, Cobalt Thiocyanate Test: 1200）</p> <p>*Another JICA bilateral project implemented trainings on the use of field test kits.</p> <p>[ラオス]</p> <p>－ 各地域での薬物取締りセミナーの際に簡易判定試薬を供与。（Marquis Test: 2000, Simon Test: 1800, Cobalt Thiocyanate Test: 800）</p> <p>－</p> <p>[Myanmar]</p> <p>－ 2008年8月の薬物取締りセミナーおよび他の機会において26すべての地域支所に簡易判定試薬を</p>	<p>－ DCDが簡易判定試薬活用のガイドラインを策定し、年2回活用状況をモニタリングする予定。</p>

	<p>配布済み。 (Marquis Test: 3950, Simon Test: 1550, Cobalt Thiocyanate Test: 2950)</p> <ul style="list-style-type: none"> - ONCBの独自予算による簡易判定試薬を配布実績あり。 - 在ミャンマータイ大使館におけるONCBスタッフの支援により簡易判定試薬の使用マニュアルを翻訳し、26の地域支所に配布。 <p>[ベトナム]</p> <ul style="list-style-type: none"> - JICAで予算支援をしてIFSが200セット(60 testers / set)の簡易判定試薬を作成し、2008年7月17日にCNPDに供与。 - 72セットは研修で使用し、38セットは地方警察に配布。 	
<p>< 5 > 薬物取締官のためのマニュアル・ハンドブック整備</p> <p>— 各国の薬物対策現地国内研修等に向けて、各国C/Pにより、最低1種類はマニュアル・ハンドブック・教科書等が作成される</p>	<p>[カンボジア]</p> <ul style="list-style-type: none"> - NACDは“Field guide for technical operation for chemical and drug control”のドラフトを確定させ、長官の承認待ち。 <p>[ラオス]</p> <ul style="list-style-type: none"> - DCDは薬物法執行マニュアルのドラフトを確定させ、大臣の承認待ち。 <p>[ミャンマー]</p> <ul style="list-style-type: none"> - CCDACは薬物法執行マニュアルを300部作成し、26すべての地域支所に配布済み。 <p>[ベトナム]</p> <ul style="list-style-type: none"> - CNPDは薬物捜査テキストをJICA支援により作成。SODCでも独自予算で薬物捜査マニュアルなどを作成。 - IFSはJICA支援により薬物分析パンフレットを作成。 	<ul style="list-style-type: none"> - 2月までに承認されれば、2000部の印刷経費を支援予定。 - 2月までに承認されれば、150部の印刷経費を支援予定。 - CCDACは事例情報を追加して、増刷することも検討中。
<p>< 6 > 薬物取締官の知識・技術向上 (取締り一般、分析結果の活用)</p> <p>— 各国においてC/Pが講師となって現地国内研修が2回以上開催される</p>	<p>[カンボジア]</p> <ul style="list-style-type: none"> - 薬物法執行研修を以下のとおり実施。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 2008年11月24-28日、プノンペン、警察・税関・NACD等から79名の参加 - NACDには法執行に関する講義をするスタッフが何人かいる。 - NACDは研修実施のための予算を十分確保していない。 <p>*JICAの別の二国間プロジェクトでも法執行セミナーを実施。(e.g. 2008年4月24日、シエムリアップ)</p> <p>[ラオス]</p> <ul style="list-style-type: none"> - 薬物法執行研修を以下のとおり実施。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 2008年11月4-7日、ビエンチャン中央地域の警察官30名が参加。 	<ul style="list-style-type: none"> - 2009年2月3-5日にルアンパ

	<p>2. 2009年1月13-16日、パクセ南部地域の警察官32名が参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> - LCDC とDCDには、薬物対策および薬物法執行に関する講義ができるスタッフが何人かいる。 - LCDCは研修実施のための予算を十分確保していない。 <p><u>【ミャンマー】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - 薬物法執行研修を以下のとおり実施。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 2008年8月26-28日、ネピトー、CCDACの地域支所から30名が参加。 2. 2008年10月7-9日、ネピトー、CCDACの地域支所から30名が参加。 <ul style="list-style-type: none"> - CIDは若手捜査官向けに薬物捜査および情報に関する独自の研修を年1、2回実施している。 - CID とCCDACには、薬物対策および薬物法執行に関する講義ができるスタッフが何人かいる。 <p><u>【ベトナム】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - 2008年にJICAが80人の警察官を対象とした薬物法執行研修の予算を支援。 - CNPDは独自に地方警察官を対象とした法執行研修を年2、3回実施。 - タイでの地域研修参加者の何人かはCNPDでの研修の講師となっている。 	<p>バンで北部地域の警察官向けに薬物法執行研修実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2009年2月17-19日にネピトーでCCDACの地域支所の警察官向けに薬物法執行研修実施予定。
--	---	--

Notes:

NACD: National Authorities for Combating Drugs (Cambodia)

DIC: Drug Information Center (Cambodia)

LCDC: Lao National Commission for Drug Control and Supervision (Lao P.D.R.)

DCD: Drug Control Department, Ministry of Public Security (Lao P.D.R.)

FDQCC: Food and Drug Quality Control Center, Ministry of Health (Lao P.D.R.)

CCDAC: Central Committee for Drug Abuse Control, Myanmar Police Force (Myanmar)

CEO: Chemical Examiner's Office, Myanmar Police Force (Myanmar)

SODC: Standing Office on Drug Control (Vietnam)

CNPD: Counter Narcotics Police Department (Vietnam)

IFS: Institute of Forensic Science (Vietnam)

ONCB: Office of Narcotics Control Board (Thailand)

JICA: Japan International Cooperation Agency (Japan)

4. 評価グリッド

評価項目	評価調査項目		判断方法	評価内容サマリー	評価
	大項目	小項目			
妥当性	プロジェクトはタイとCLMV諸国の政策に合致しているか。		現状と政策の整合性の検討	タイとCLMV諸国の違法薬物対策政策は、一国の問題だけではなく、以下に示すような多国間の取り組みを必要としており、各国の政策と高い整合性を持っている。 ・違法薬物問題は古くから、タイ、ラオス、ミャンマーの3カ国にまたがる広域問題であった。さらに90年代に、ベトナム、カンボジアでも汚染が進んだ。薬物の種類も、大麻、アヘン、ヘロインなどから、ATSやコカインなどの合成薬物に移ってきており、生産がより巧妙になってきている。 ・タイ：第9次国家経済社会計画（2002-06）では、薬物問題が政府の重点政策に挙げられている。2007年には薬物関連司法手続きが改定されるなど、引き続き関心が高い。	高い
	ターゲットグループの選択は適切だったか。	教官候補者個人のニーズとプロジェクトの整合性	同上	-フェーズIを通じて、ONCBは高い能力を持つ職員を擁しており、彼らをインストラクターとして設定するターゲット・グループの選択は適切なものであった。職員の高い能力を地域において示す機会を提供することによって、彼らのコア業務におけるモチベーションを高めることになる。	高い
	プロジェクトは日本の国別援助計画およびJICAの国別事業実施計画に合致しているか。	NATSI、ONCBの組織としてのニーズとプロジェクトの整合性		NATSIやONCBにとっては、プロジェクトにおけるターゲット・グループの活動によって、組織自体のプレゼンスの向上に貢献し、ひいてはCLMV諸国の薬物取締り及び薬物分析能力の強化に寄与している。	高い
	プロジェクトは日本の国別援助計画およびJICAの国別事業実施計画に合致しているか。	プロジェクトは援助の優先課題を扱っているか。	ODA政策文書	-ODA大綱(2003年)では、地球的規模の問題への取り組みが重点課題(3)として取り上げられており、その中に違法薬物問題も含まれている。 -ODA中期政策（2005年2月）でも、違法薬物問題を地球規模の問題として、ODAにより解決すべき問題としている。 -対タイ国別経済協力計画（2006年5月）では、タイの援助国化を支援し、人間の安全保障及び社会の安定化のために、対処すべき問題として麻薬問題も挙げられており、整合性が高い。	高い
手段としての適切さ		JICAの国別事業実施計画との整合性	JICA国別事業実施計画	-国別事業実施計画(2006年10月)では、上記タイ経済協力計画と同様の分野を援助重点分野としており、整合性が高い。	高い
		日本の技術的な優位性	プロジェクト関連文書	-日本は薬物分析に十分な経験を有し、専門家は薬物分析、取締りに関わる技術をタイ及びCLMV機関に移転する能力を持つ。	高い
		プロジェクトの策定（地域協力案件）の適切さ	同上	広域案件としての枠組みに関する関係国間の合意形成は、プロジェクト開始後に行われたため、枠組み形成プロセスとしての妥当性は十分とはいえない。	中程度

評価項目	評価調査項目		判断方法	評価内容サマリー	評価
	大項目	小項目			
有効性	効果の達成状況（実績表参照）		外部要因の特定	-カンボジアに、JICAから薬物対策の長期派遣専門家が派遣されており、スムーズな連携、相乗効果が図られた。 CLMVから日本へのCLMVからJICAへの要請書の到達が遅れ、CLMVにおける活動開始が遅れた。	高い 中程度
	プロジェクト目標の進捗、達成に、貢献した外部要因はあるか。	GC等機材の稼働状況。その他			
	プロジェクト目標の進捗、達成を阻害した外部要因はあるか。				

評価項目	評価調査項目		判断方法	評価内容サマリー	評価
	大項目	小項目			
効率性 (投入の適切さと成果の発現)	成果に対して投入は適切であったか。	日本人専門家の数、時期、専門分野	投入と活動状況の比較	日本人専門家の投入の全体規模は適切であったが、最終の8ヶ月に活動負荷が集中してしまった。 GCなどの主な機材がフェーズIで導入されており、フェーズIIでは、円滑に業務を開始することができた。 タイのカウンターパートは十分な能力を持っており、配置も適切であった。 経験を持ったNATSIのカウンターパートの一人が、2008年11月に異動した。	中程度 高い 高い
		投入機材の項目、仕様、投入時期			
		タイ側カウンターパートの数、時期、専門分野			
	成果は効率的に達成されたか。	成果1は効率的に達成されたか。	成果と投入の比較	日本側からの機材の投入が少なくても、十分な成果を達成することができた。 -ONCBは彼ら自身のイニシアティブにより、薬物取締官の訓練を実施することができた。 -新たに開発したONCBの薬物データベースは、CLMVでのデータベースと同様のデータベース構造を有しており、将来の効率的なデータ交換を実現しうる。 リーダーワークショップをCLMV向け活動の最初に実施することにより、各国に薬物分析と薬物取締りにかかる標準的な知識を効率的に提供することができた。 ONCBが、カンボジア及びミャンマーを2国間ベースで支援している。	高い 高い 高い 中程度 高い 中程度
	成果2は効率的に達成されたか。				
	成果3は効率的に達成されたか。				
	効率性に、貢献した外部要因はあるか。		貢献要因の特定		高い 中程度
	効率性を阻害した外部要因はあるか。		阻害要因の特定	-ミャンマーにおけるGCが長期間使用できない状態にあった。試薬、付属品、メンテナンス・サービスがCLMV各国内で、容易に調達できない場合がある。 -輸入手続き等のため、試薬、付属品の調達に相当な時間がかかり、活動予定の作成を前倒しで行う必要があった。	中程度